



2. 経費支出概要書（経費内訳）  
 (1) 経営相談支援事業

泉南市商工会  
 (単位：円)

区 分	変更前			変更後			差額	
	事業所数/回数	算定基準	補助金額	事業所数/回数	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
事業所カルテ・サービス提案	215	5,375,000		225	5,625,000		250,000	
支援機関等へのつなぎ	30	300,000		14	140,000		▲ 160,000	
金融支援（紹介型）	30	900,000		33	990,000		90,000	
金融支援（経営指導型）	45	1,800,000		48	1,920,000		120,000	
マル経融資等の返済条件緩和支援	2	40,000		0	0		▲ 40,000	
資金繰り計画作成支援	3	60,000		0	0		▲ 60,000	
記帳支援	45	1,125,000		45	1,125,000		0	
労務支援	45	900,000		35	700,000		▲ 200,000	
人材育成計画作成支援	1	20,000		0	0		▲ 20,000	
マーケティング力向上支援	1	20,000		0	0		▲ 20,000	
販路開拓支援	45	900,000		72	1,440,000		540,000	
事業計画作成支援	5	250,000		20	1,000,000		750,000	
創業支援	10	200,000		2	40,000		▲ 160,000	
事業継続計画(BCP)作成支援	5	100,000		5	100,000		0	
コスト削減計画作成支援	5	100,000		0	0		▲ 100,000	
財務分析支援	20	200,000		20	200,000		0	
5S支援	1	10,000		0	0		▲ 10,000	
IT化支援	2	40,000		1	20,000		▲ 20,000	
債権保全計画作成支援	1	10,000		0	0		▲ 10,000	
事業承継支援	20	400,000		20	400,000		0	
災害時対応支援	32	160,000		32	160,000		0	
フォローアップ支援	50	250,000		50	250,000		0	
結果報告	215	2,150,000		225	2,250,000		100,000	
小 計	—	15,310,000	15,300,944	—	16,360,000	16,350,344	1,050,000	1,049,400

(2) 専門相談支援事業

事業名	変更前			変更後			差額	
	支援日数	算定基準	補助金額	支援日数	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
税務相談	6	144,000		6	144,000		0	
法務相談	6	144,000		6	144,000		0	
労務相談	6	144,000		6	144,000		0	
経営相談	12	288,000		12	288,000		0	
	0	0		0	0		0	
小 計	—	720,000	720,000	—	720,000	720,000	0	0

※支援日数×24,000円。ただし、記帳支援のために税理士を活用する場合、事業所数×26,000円

(3) 地域活性化事業

	変更前		変更後		差額	
	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
小 計	別紙事業調書のとおり	8,045,987	別紙事業調書【変更後】のとおり	6,996,587		▲ 1,049,400

(4) 商工会等支援事業

	変更前		変更後		差額	
	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額	算定基準	補助金額
小 計	別紙事業調書のとおり	661,250	別紙事業調書【変更後】のとおり	661,250		0

(5) 合計

	変更前		変更後		差額	
		補助金額		補助金額		補助金額
申請合計		24,728,181		24,728,181		0

事業名		得する街のゼミナール「せんなんまちゼミ」事業	新規/継続	継続
想定する実施期間		H29 年度～ 年度まで	←複数年段階の実施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	泉南市では商店街が形成されておらず、商業集積地が点在しており集客力が乏しく個店が収益をあげるのが難しい現状がある。また大型商業施設の進出、少子高齢化などで従来の顧客が減少してきていることも売上低下の要因としてある。そのような状況の中、大型店にはない個店・事業主の魅力を伝え、消費者と個店を強く結びつけることが出来る「まちゼミ」事業を実施することで、個店には新規顧客と売上を、お客様には満足、地域には賑わいを、取り戻すことが出来る。		
	支援する対象 (業種・事業所数等)	泉南市内で事業を行っている事業所で、個店の魅力アップと地域活性化に積極的に取り組もうとしている小売及び飲食を含むサービス業。またBtoCを行っている製造業。		
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	物産展などの出店型のイベントでは人員に余剰のある事業所しか出展できず、人員が足りていない事業所からは自店で取り組みが出来る販路開拓型の事業が求められていた。また「せんなんまちゼミ」の開催に向けた参加店研修会を開催する中、参加事業所から「本事業は継続的に実施すべき」との意見をいただいている。		
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	令和2年1月17日～2月14日にかけて「第3回せんなんまちゼミ」を開催 参加事業所数38事業所（内支援対象企業数36社）、57講座 参加目標数400名（まちゼミ受講者数）第一回実績：355名 第2回実績：299名 参加店舗からせんなんまちゼミ実行委員会を組成、事業所が主体的にまちゼミに取り組める体制を構築、適宜実行委員会を開催しまちゼミ運営についての検討を行った。従来より実施していた「親子まちゼミ」に加え、今回より「工場見学ゼミ」を実施、子供の教育にも寄与することで泉南市内の幼稚園・小学校・中学校にチラシを配布することが出来た。子育て世代と事業所をつなぐことで新たな層へ販路開拓を実施することが出来た。		
	反省点	実行委員会を組成したことで主体的に取り組む体制を構築したが、事業所間での温度差が生まれている。この温度差を出来るだけ少なくし参加店全体で主体的に取り組めるよう意見交換や交流の場を設けるよう検討したい。		
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	人材育成型	参加店と受講生（一般消費者）をまちゼミの場で深いコミュニケーションを取る事により信頼関係を築き、新規顧客開拓へつなぐことを目的とする。全国のまちゼミ実施事例をみると受講生の2～3割はその後の固定客につながっているとのデータがある。参加者を増やし参加者の満足度を向上させるため、過去のまちゼミ実施で学んだノウハウを活かしつつ、更に効果的に店舗の固定客に繋げられるよう意欲的な参加店舗の増加、講座数の拡大、講座内容のブラッシュアップを行なった上でまちゼミ実施に取り組む。 まちゼミの実施は新規顧客開拓の機会創出のみならず、事業主や従業員のスキルやモチベーションのアップ、新規事業展開のきっかけづくりにもつながり、店舗の活性化、ひいては街の活性化にもつながり空き店舗の抑制や新規創業促進にも寄与するものである。		
	人材交流型			
	○ 販路開拓型			
	ハズ 枵型			
	独自提案型			
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 府施策連携 <input type="checkbox"/> (b) 広域連携 <input type="checkbox"/> (c) 市町村連携 <input type="checkbox"/> (d) 相談事業相乗効果 (a)【府施策連携携-11番 地域住民や商店街以外の団体と連携した新たな商店街活性化の促進】 「泉南市観光協会」や地域の観光ボランティア団体である「泉南案内人の会」とも連携しゼミを企画、事業者だけではなく地域住民や商店街以外の団体とも連携しまちぐるみでの事業を目指す。 (c)市町村連携：事業実施の際には泉南市の商業担当者とも連絡を密にとり、市広報への掲載や泉南市フェイスブックでの開催告知、泉南市内の幼稚園・小学校・中学校へのチラシ配布など広報面にて連携を行う。 (d)相談事業相乗効果：まちゼミ参加事業所に対し、SNS活用支援や独自でのゼミ開催に向けたPOP作成などの販路開拓支援、マーケティング支援を実施することでカルテ化につなげた。			

事業名		得する街のゼミナール「せんなんまちゼミ」事業				新規/継続	継続		
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 販路開拓型 27社	設定根拠：令和元年度に第3回せんなんまちゼミを実施し36事業所を集めたが、目標値として前年度と同程度を見込む。 募集方法：商工会報、ウェブサイト、泉南市報、巡回訪問時や商工会窓口にて周知。また参加希望店舗による紹介で動員を図る。また第3回せんなんまちゼミチラシにて新規参加店舗の募集をかける。						
	支援対象企業の変化	本事業に参画することで積極的に新規顧客を取り込む意欲を奮い立たせることができる。ゼミの内容や来店時の対応を改めて考え直していただくことができ、個店の魅力アップに貢献する。自店のファンを作り出す本事業は売上につながるだけでなく、事業主のやる気・モチベーションを高めるのにも効果的である。							
	指標	まちゼミ実施後のアンケートにおいて 販売促進・新規顧客開拓に対する意識が向上した事業所			数値目標	70%			
その他目標値	目標値の内容⇒								
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費	
		⇒	50,500 円 ×	27	×	1.00	=	1,363,500 円	
			円 ×		×		=	円	
			円 ×		×		=	円	
		(小計) 1,363,500 円							
	※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算 (小計の5%)								
	計 1,363,500 円								
独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準とおりの場合不要)									
算出額	①市町村等補助		円	交付市町村等					
	②受益者負担		81,000 円	負担金の積算		まちゼミ参加費 (チラシ掲載料) 3000円×27店舗			
	<input type="checkbox"/>	(a)府施策連携	<input type="checkbox"/>	(b)広域連携	<input type="checkbox"/>	(c)市町村連携	<input type="checkbox"/>	(d)相談事業相乗効果	
	標準事業費		補助率			(①市町村等+②受益者負担)			
	1,363,500 円 ×		1.00		=	1,282,500 円	( 81,000 円 )		
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはリアルクで説明する代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額		役割 (配分の考え方)				
	○	泉南市商工会	1,282,500 円						
			円						
			円						
			円						

【備考】

※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		得する街のゼミナール「せんなんまちゼミ」事業	新規/継続	継続
想定する実施期間		H29 年度～ 年度まで	←複数年段階の実施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	泉南市では商店街が形成されておらず、商業集積地が点在しており集客力が乏しく個店が収益をあげるのが難しい現状がある。また大型商業施設の進出、少子高齢化などで従来の顧客が減少してきていることも売上低下の要因としてある。そのような状況の中、大型店にはない個店・事業主の魅力を伝え、消費者と個店を強く結びつけることが出来る「まちゼミ」事業を実施することで、個店には新規顧客と売上を、お客様には満足、地域には賑わいを、取り戻すことが出来る。		
	支援する対象 (業種・事業所数等)	泉南市内で事業を行っている事業所で、個店の魅力アップと地域活性化に積極的に取り組もうとしている小売及び飲食を含むサービス業。またBtoCを行っている製造業。		
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	物産展などの出店型のイベントでは人員に余剰のある事業所しか出展できず、人員が足りていない事業所からは自店で取り組みが出来る販路開拓型の事業が求められていた。また「せんなんまちゼミ」の開催に向けた参加店研修会を開催する中、参加事業所から「本事業は継続的に実施すべき」との意見をいただいている。		
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	令和2年1月17日～2月14日にかけて「第3回せんなんまちゼミ」を開催 参加事業所数38事業所（内支援対象企業数36社）、57講座 参加目標数400名（まちゼミ受講者数）第一回実績：355名 第2回実績：299名 参加店舗からせんなんまちゼミ実行委員会を組成、事業所が主体的にまちゼミに取り組める体制を構築、適宜実行委員会を開催しまちゼミ運営についての検討を行った。従来より実施していた「親子まちゼミ」に加え、今回より「工場見学ゼミ」を実施、子供の教育にも寄与することで泉南市内の幼稚園・小学校・中学校にチラシを配布することが出来た。子育て世代と事業所をつなぐことで新たな層へ販路開拓を実施することが出来た。		
	反省点	実行委員会を組成したことで主体的に取り組む体制を構築したが、事業所間での温度差が生まれている。この温度差を出来るだけ少なくし参加店全体で主体的に取り組めるよう意見交換や交流の場を設けるよう検討したい。		
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	人材育成型	参加店と受講生（一般消費者）をまちゼミの場で深いコミュニケーションを取る事により信頼関係を築き、新規顧客開拓へつなぐことを目的とする。全国のまちゼミ実施事例をみると受講生の2～3割はその後の固定客につながっているとのデータがある。参加者を増やし参加者の満足度を向上させるため、過去のまちゼミ実施で学んだノウハウを活かしつつ、更に効果的に店舗の固定客に繋げられるよう意欲的な参加店舗の増加、講座数の拡大、講座内容のブラッシュアップを行なった上でまちゼミ実施に取り組む。 まちゼミの実施は新規顧客開拓の機会創出のみならず、事業主や従業員のスキルやモチベーションのアップ、新規事業展開のきっかけづくりにもつながり、店舗の活性化、ひいては街の活性化にもつながり空き店舗の抑制や新規創業促進にも寄与するものである。		
	人材交流型			
	○ 販路開拓型			
	ハズ 枵型			
	独自提案型			
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 府施策連携 <input type="checkbox"/> (b) 広域連携 <input type="checkbox"/> (c) 市町村連携 <input type="checkbox"/> (d) 相談事業相乗効果 (a)【府施策連携携-11番 地域住民や商店街以外の団体と連携した新たな商店街活性化の促進】 「泉南市観光協会」や地域の観光ボランティア団体である「泉南案内人の会」とも連携しゼミを企画、事業者だけではなく地域住民や商店街以外の団体とも連携しまちぐるみでの事業を目指す。 (c)市町村連携：事業実施の際には泉南市の商業担当者とも連絡を密にとり、市広報への掲載や泉南市フェイスブックでの開催告知、泉南市内の幼稚園・小学校・中学校へのチラシ配布など広報面にて連携を行う。 (d)相談事業相乗効果：まちゼミ参加事業所に対し、SNS活用支援や独自でのゼミ開催に向けたPOP作成などの販路開拓支援、マーケティング支援を実施することでカルテ化につなげた。			

事業名		得する街のゼミナール「せんなんまちゼミ」事業				新規/継続	継続	
事業の目標	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 販路開拓型 27社	設定根拠：令和元年度に第3回せんなんまちゼミを実施し36事業所を集めたが、目標値として前年度と同程度を見込む。 募集方法：商工会報、ウェブサイト、泉南市報、巡回訪問時や商工会窓口にて周知。また参加希望店舗による紹介で動員を図る。また第3回せんなんまちゼミチラシにて新規参加店舗の募集をかける。					
	支援対象企業の変化	本事業に参画することで積極的に新規顧客を取り込む意欲を奮い立たせることができる。ゼミの内容や来店時の対応を改めて考え直していただくことができ、個店の魅力アップに貢献する。自店のファンを作り出す本事業は売上につながるだけでなく、事業主のやる気・モチベーションを高めるのにも効果的である。						
	その他目標値	指標	まちゼミ実施後のアンケートにおいて 販売促進・新規顧客開拓に対する意識が向上した事業所			数値目標	70%	
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	サービス単価	支援企業数	係数	標準事業費			
	⇒	50,500 円 ×	27 ×	1.00 =	1,363,500 円			
		円 ×	×	=	円			
		円 ×	×	=	円			
		(小計) 1,363,500 円						
		※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)					円	
	計					1,363,500 円		
	独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準とおりの場合不要)							
	①市町村等補助	円	交付市町村等					
	②受益者負担	81,000 円	負担金の積算	まちゼミ参加費(チラシ掲載料) 3000円×27店舗				
	<input type="checkbox"/> (a)府施策連携	<input type="checkbox"/> (b)広域連携	<input type="checkbox"/> (c)市町村連携	<input type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果				
	標準事業費	補助率	(①市町村等+②受益者負担)					
	1,363,500 円 ×	1.00 =	1,282,500 円	( 81,000 円 )				
	補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはリアルクで説明する代表団体に○)	代 商工会・会議所名	配分額	役割(配分の考え方)				
	○	泉南市商工会	1,282,500 円					
			円					
			円					
			円					
			円					

【備考】  
令和2年度【得する街のゼミナール「せんなんまちゼミ」事業】は  
令和2年から令和3年の年末年始に新型コロナウイルス感染症感染拡大が続く中、大阪府において令和3年1月14日から緊急事態宣言が再発令されたため、まちゼミ参加者やスタッフなど関係者の感染リスクの抑制が困難と判断し事業廃止

※別添で補足する内容があれば添付してください。

小規模事業経営支援事業 地域活性化事業 変更理由書

泉南市商工会

事業名

得する街のゼミナール「せんなんまちゼミ」事業

計画に対する実績（数値）

支援企業数(計画)

27

支援企業数(実績)

0

支援実績率

0.0%

【参考】支援予定企業数

38

理由

【廃止の経過と理由】  
今年度当初、令和3年1月15日～2月12日の期間でせんなんまちゼミを開催する計画で事業を推進、せんなんまちゼミ実行委員会にて企画検討を実施。参加希望事業者を集めチラシ作成会や直前勉強会&経営に役立つセミナーを開催し、配布するチラシを作成し準備を進めていたが、大阪府において令和3年1月14日から緊急事態宣言が再発令されたため、まちゼミ参加者やスタッフなど関係者の感染リスクの抑制が困難と判断し事業の実施を見送ることとなった。

【取組状況】  
・せんなんまちゼミ実行委員会 計6回開催  
令和2年4月10日（金）、令和2年5月27日（水）、令和2年6月29日（月）  
令和2年7月28日（火）、令和2年8月28日（金）、令和2年9月30日（水）  
・参加店を集めた勉強会・セミナーを開催  
令和2年10月7日（水）チラシ作成会 参加者：昼の部20名 夜の部18名  
令和2年12月16日（水）直前勉強会&経営に役立つセミナー（zoomにて）参加者15名  
・第4回せんなんまちゼミ参加予定事業所数・講座数  
38事業所で67講座の開催を予定  
・第4回せんなんまちゼミチラシの作成と配布、SNSでの開催周知  
1月14日に大阪府下において緊急事態宣言が発令されるまでの間、新聞折込・泉南市内幼稚園小中学校・参加店舗・泉南市内公共機関にて配布  
・まちゼミフェスの開催  
令和2年11月15日（日）泉南りんくう公園（SENNAN LONG PARK）において開催された『せんなんまちごとフェスティバル』にて『まちゼミフェス』を開催。実行委員会のメンバーでまちゼミ体験の提供と第4回せんなんまちゼミの広報と周知を行った。

【支援効果】  
せんなんまちゼミは中止となったものの、チラシは配布済み、SNSでは周知済みであったため店舗へまちゼミ参加申込の連絡が入っていた。各店舗では参加希望者に対してアフターフォロー（緊急事態宣言解除後のゼミ開催・少人数でのゼミ開催・オンラインゼミでの開催など）により個別で新規顧客獲得に向けた対応を取っている。

【今後の改善方策】  
今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことを想定し、感染リスクの高い一部の講座は、参加者4人までの《少人数制まちゼミ》、一対一で対応する《マンツーマンゼミ》、完全非対面型の《オンラインまちゼミ》等へシフトし感染症のリスクを抑えた形での開催を検討する。

【経費内訳】

支出内容	金額
①チラシ印刷代 324,500円B3サイズ3万枚（内折込1.9万枚）	¥324,500
支払先：(株)プリントラボオオイシ	
②チラシ折込料 94,050円 @4.5円×1.9万世帯	¥94,050
支払先：(株)プリントラボオオイシ	
③のぼりデザイン料 33,000円	¥33,000
支払先：黄色い樹 田上久夏	
④のぼり製作費（50枚）	¥66,000
支払先：山陽製紙(株)	
⑤のぼりポール（40本）	¥11,000
支払先：(株)ジャストコーポレーション（のぼり屋さんドットコム）	
⑥まちゼミフェス駐車代金（1200円×1台分）	¥1,200
支払先：大和リース(株)(Dパーキング泉南りんくう公園)	
⑦飛沫防止パーティション（10セット）	¥9,350
支払先：日本紙工(株)	
⑧せんなんまちゼミチラシDM発送 324通	¥17,800
支払先：(株)寿屋	
⑨Zoom PROライセンス料（2200円×1か月分）	¥2,200
支払先：Zoom Video Communication Inc	
令和2年度せんなんまちゼミ事業費	計 ¥559,100

事業名		泉南異業種交流会事業	新規/継続	継続
想定する実施期間		25 年度～ 年度まで	←複数年段階的实施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような状態にしたいか)	<p>経済産業省 工業統計(市区町村編)によると、2018年における泉南市の製造業の事業所数は105事業所と減少に歯止めがかからない状況である。泉南市では工業系事業者が交流や情報交換をする場が少なく、事業者同士の横のつながりを工業振興対策委員会が担っている以上、今年度においても商工会が地域の工業系事業者を中心とした交流会を開催し、共通の課題に対する新しい取り組みや企業間連携を促進するよう意見交換を実施しつながりを深めたいと考える。</p> <p>こうした中、泉南市商工会では工業振興対策委員会が中心を担っており、平成26年以降、経営セミナー・市内工場見学・先進事業所視察の各事業に異業種交流会を併催する泉南異業種交流会事業を実施している。</p> <p>交流会と合わせて経営セミナー(労務、情報発信や補助金活用など)・先進事業所視察・市内工場見学を開催することにより、単に交流だけではなく、経営力の向上に対するそれぞれの意識を高め、その結果として工業系事業者に関わらず市内の事業者が一体となり経営改善・活性化を目指すことを目的とし中小企業の課題解決に向け取り組んでいく所存である。</p>		
	支援する対象 (業種・事業所数等)	製造業を中心とした市内事業者。		
	事業に対する企業ニーズ (内容・把握方法等)	他社の取り組みや事例を聞くことにより、自社での新たな取り組みにつなげたいと望む事業者は多い。そのため人材交流に対する要望は根強くあり、参加事業者からも継続して実施して欲しいとの要望が多く寄せられている。また、経営に関するセミナーの開催や他地域の事業所等の視察を要望する声も多く寄せられている。		
これまでの取組状況 ※継続事業の場合のみ記入	実施内容・実績数値	令和元年度は9月10日経営セミナー(ヒューマンエラー防止対策セミナー)20名参加、今後の事業に役立てようと思う100%)、10月24日先進事業所視察(イカ(株)大阪工場、関西電力(株)堺港発電所20名参加、満足度8.9)を実施し、令和2年2月4日市内工場見学(阪和ホ-ル(株))を予定しており、各事業に異業種交流会を併せて開催した。今年度で6年目となるが交流の輪が広がり、参加者からは「人脈が拡大した」「新しい発見があった」という前向きな反応が多く寄せられている。今年度も、いままで参加したことがない事業者にもたくさん参加して頂き満足度も高かった。		
	反省点	平成30年度は中小企業の雇用に対して、求人票作成セミナーを開催、令和元年度は製造業の課題であるヒューマンエラー防止対策セミナーなど一つ一つ課題を解決していくセミナーを次年度も開催していきたい。		
具体的な実施内容・手法 (該当型に○)いつ・どこで・何を・どのようにするのかを明確に)	○ 人材育成型	①経営セミナー 経営セミナーを年1回(10月)泉南市商工会館において開催する。交流会に参加した事業者の経営力の向上に対する意識が高まり、セミナー開催に対する要望も多いため今年度も開催する。工業振興対策委員会にて、セミナーテーマを検討し実施する。		
	○ 人材交流型	②市内工場見学ツアー 市内工場見学を年1回(2月)開催する。参加事業者からの要望が多い泉州地域の異業種の事業所見学(工場見学)を取り入れ、新しい気づきやヒントを得ていただく機会を提供する。次年度より「市内の事業所を見てみよう」と題して、事業所見学に縛られることなく泉南市内で事業経営している経営者を招き、事業内容・経営理念と方針・泉南市への思い・今後の展望などの聴講も検討している。		
	販路開拓型	③先進事業所視察と異業種交流会 先進事業所及び施設の視察と異業種交流会を年1回(11月)に開催する。工業振興対策委員会にて、視察先を決定し実施する。また、異業種交流会では自社PRで情報発信を行うとともに、名刺交換で他社の現状や様々な業界動向を聞くなどすることで、双方向での交流拡大を図ることを目的とするとともに、商工会から参加事業者それぞれに適した支援施策の情報提供なども行う。		
	ハンズオン型			
	独自提案型			
事業手法 (該当する場合は○印と下欄にその根拠)	<input checked="" type="checkbox"/> (a)府施策連携 <input type="checkbox"/> (b)広域連携 <input type="checkbox"/> (c)市町村連携 <input type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果 (c)泉南市産業観光課の担当者との交流会への参加。及びその他連絡調整を密にし、商工会と市が連携して事業者のニーズを把握する。(d)ニーズに沿った支援を提案することで相談事業との相乗効果につなげる。web広報等だけでなく、大阪商工労働部メルマガ等のSNSについても積極的に活用し市内外や未会員問わず、集客につなげたい。			

事業名		泉南異業種交流会事業				新規/継続	継続		
事業の目標①	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法→ 20 社	支援対象企業数は昨年度実績から設定。募集方法は、経営指導員による巡回や商工会のwebサイト、商工会報、市広報等で募集する。						
	支援対象企業の変化	小規模企業が抱える共通の課題解決や、今後の方向性を示す内容のセミナーを受講することにより、経営力の向上に対する意識が高まる。				指標	数値目標 70%以上		
事業の目標②	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法→ 10 社	支援対象企業数は昨年度参加事業者のうち、事業所等見学に積極的と思われる事業所数から設定。募集方法は、経営指導員による巡回や商工会のwebサイト、商工会報、市広報等で募集する。						
	支援対象企業の変化	参加事業者同士のつながりが強くなる。その結果として参加事業者間での取引や、新たな取り組み、コラボレーションが生まれ、自社及び泉南市内の活性化につながる。				指標	数値目標 70%以上		
事業の目標③	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法→ 20 社	支援対象企業数は昨年度実績から設定。募集方法は、経営指導員による巡回や商工会のwebサイト、商工会報、市広報等で募集する。						
	支援対象企業の変化	先進事業所等の取り組みを目の当たりにすることにより、自社との比較が出来、また課題が浮き彫りになる。そしてその解決に向けた新しい取り組みにつながる。				指標	数値目標 70%以上		
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、→の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費	
		20,200 円 ×	20	×	1.00	=	404,000 円		
		20,200 円 ×	10	×	1.00	=	202,000 円		
		40,400 円 ×	20	×	1.00	=	808,000 円		
	(小計)							1,414,000 円	
	※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)							円	
	計							1,414,000 円	
	独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)								
	算出額	①市町村等補助	円	交付市町村等					
		②受益者負担	円	負担金の積算					
(a)府施策連携		(b)広域連携	<input type="radio"/>	(c)市町村連携	<input type="radio"/>	(d)相談事業相乗効果			
標準事業費		補助率			(①市町村等+②受益者負担)				
1,414,000 円 ×		0.50	=	707,000 円	(円)				
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額	役割(配分の考え方)					
			円						
			円						
			円						
			円						

【備考】 ※別添で補足する内容があれば添付してください。

事業名		泉南異業種交流会事業		新規/継続	継続
想定する実施期間		25 年度～	年度まで	←複数年段階的实施事業は左欄に○を また、別紙にて計画を提出すること	
事業の概要	事業の目的 (現状や課題をどのような 状態にしたいか)	<p>経済産業省 工業統計 (市区町村編)によると、2018年における泉南市の製造業の事業所数は105事業所と減少に歯止めがかからない状況である。泉南市では工業系事業者が交流や情報交換をする場が少なく、事業者同士の横のつながりを工業振興対策委員会が担っている以上、今年度においても商工会が地域の工業系事業者を中心とした交流会を開催し、共通の課題に対する新しい取り組みや企業間連携を促進するよう意見交換を実施しつながりを深めたいと考える。</p> <p>こうした中、泉南市商工会では工業振興対策委員会が中心を担っており、平成26年以降、経営セミナー・市内工場見学・先進事業所視察の各事業に異業種交流会を併催する泉南異業種交流会事業を実施している。</p> <p>交流会と合わせて経営セミナー(労務、情報発信や補助金活用など)・先進事業所視察・市内工場見学を開催することにより、単に交流するだけではなく、経営力の向上に対するそれぞれの意識を高め、その結果として工業系事業者に関わらず市内の事業者が一体となり経営改善・活性化を目指すことを目的とし中小企業の課題解決に向け取り組んでいく所存である。</p>			
	支援する対象 (業種・事業所数等)	製造業を中心とした市内事業者。			
	事業に対する 企業ニーズ (内容・把握方法等)	他社の取組みや事例を聞くことにより、自社での新たな取り組みにつなげたいと望む事業者は多い。そのため人材交流に対する要望は根強くあり、参加事業者からも継続して実施して欲しいとの要望が多く寄せられている。また、経営に関するセミナーの開催や他地域の事業所等の視察を要望する声も多く寄せられている。			
これまでの 取組状況 ※継続事業の 場合のみ記入	実施内容・ 実績数値	<p>令和元年度は9月10日経営セミナー(ヒューマンエラー防止対策セミナー20名参加、今後の事業に役立てようと思う100%)、10月24日先進事業所視察(イカ(株)大阪工場、関西電力(株)堺港発電所20名参加、満足度8.9)を実施し、令和2年2月4日市内工場見学(阪和E-0(株))を予定しており、各事業に異業種交流会を併せて開催した。今年度で6年目となるが交流の輪が広がり、参加者からは「人脈が拡大した」「新しい発見があった」という前向きな反応が多く寄せられている。今年度も、いままで参加したことがない事業者にもたくさん参加して頂き満足度も高かった。</p>			
	反省点	平成30年度は中小企業の雇用に対して、求人票作成セミナーを開催、令和元年度は製造業の課題であるヒューマンエラー防止対策セミナーなど一つ一つ課題を解決していくセミナーを次年度も開催していきたい。			
具体的 な実施 内容・ 手法 (該当 に○) いつ・ どこで 何を・ どのよ うにす るのか を明確に)	○ 人材育成型	<p>①経営セミナー 経営セミナーを年1回(10月)泉南市商工会館において開催する。交流会に参加した事業者の経営力の向上に対する意識が高まり、セミナー開催に対する要望も多いため今年度も開催する。工業振興対策委員会にて、セミナーテーマを検討し実施する。</p>			
	○ 人材交流型	<p>②市内工場見学ツアー 市内工場見学を年1回(2月)開催する。参加事業者からの要望が多い泉州地域の異業種の事業所見学(工場見学)を取り入れ、新しい気づきやヒントを得ていただく機会を提供する。次年度より「市内の事業所を見てみよう」と題して、事業所見学に縛られることなく泉南市内で事業経営している経営者を招き、事業内容・経営理念と方針・泉南市への思い・今後の展望などの聴講も検討している。</p>			
	販路開拓型	<p>※新型コロナウイルス感染症の影響により緊急事態宣言が再発令されたことを受け開催中止。</p>			
	ハンズオン型	<p>③先進事業所視察と異業種交流会 先進事業所及び施設の視察と異業種交流会を年1回(11月)に開催する。工業振興対策委員会にて、視察先を決定し実施する。また、異業種交流会では自社PRで情報発信を行うとともに、名刺交換で他社の現状や様々な業界動向を聞くなどすることで、双方向での交流拡大を図ることを目的とするとともに、商工会から参加事業者それぞれに適した支援施策の情報提供なども行う。</p>			
	独自提案型				
事業手法 (該当する場合は ○印と下欄に その根拠)	<p>(a)府施策連携 <input type="checkbox"/> (b)広域連携 <input type="checkbox"/> (c)市町村連携 <input type="checkbox"/> (d)相談事業相乗効果 <input type="checkbox"/></p> <p>(c)泉南市産業観光課の担当者の交流会への参加。及びその他連絡調整を密にし、商工会と市が連携して事業者のニーズを把握する。(d)ニーズに沿った支援を提案することで相談事業との相乗効果につなげる。web広報等だけでなく、大阪商工労働部メルマガ等のSNSについても積極的に活用し市内外や未会員問わず、集客につなげたい。</p>				

事業名		泉南異業種交流会事業				新規/継続	継続		
事業の目標①	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 20 社	支援対象企業数は昨年度実績から設定。募集方法は、経営指導員による巡回や商工会のwebサイト、商工会報、市広報等で募集する。						
	支援対象企業の変化	小規模企業が抱える共通の課題解決や、今後の方向性を示す内容のセミナーを受講することにより、経営力の向上に対する意識が高まる。					指標	アンケートの回答で、泉南異業種交流会が今後の事業運営に役立ったと回答した事業者の割合	数値目標
事業の目標②	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 0 社	支援対象企業数は昨年度参加事業者のうち、事業所等見字に積極的と思われる事業所数から設定。募集方法は、経営指導員による巡回や商工会のwebサイト、商工会報、市広報等で募集する。						
	支援対象企業の変化	参加事業者同士のつながりが強くなる。その結果として参加事業者間での取引や、新たな取り組み、コラボレーションが生まれ、自社及び泉南市内の活性化につながる。					指標	アンケートの回答で、泉南異業種交流会が今後の事業運営に役立ったと回答した事業者の割合	数値目標
事業の目標③	支援対象企業数	設定根拠及び募集方法⇒ 20 社	支援対象企業数は昨年度実績から設定。募集方法は、経営指導員による巡回や商工会のwebサイト、商工会報、市広報等で募集する。						
	支援対象企業の変化	先進事業所等の取り組みを目の当たりにすることにより、自社との比較が出来、また課題が浮き彫りになる。そしてその解決に向けた新しい取り組みにつながる。					指標	アンケートの回答で、泉南異業種交流会が今後の事業運営に役立ったと回答した事業者の割合	数値目標
算定基準により算出される額	算定基準 (行が足りない場合は、⇒の行に挿入)	サービス単価		支援企業数		係数		標準事業費	
		20,200 円 ×	20	×	1.00	=	404,000 円		
		20,200 円 ×	0	×	1.00	=	0 円		
		40,400 円 ×	20	×	1.00	=	808,000 円		
								(小計)	1,212,000 円
※新規の広域連携事業の場合は広域連携促進費を加算(小計の5%)									円
								計	1,212,000 円
算出額	独自提案単価及び独自補正係数の根拠 (基準どおりの場合不要)								
	①市町村等補助		円	交付市町村等					
	②受益者負担		円	負担金の積算					
	(a)府施策連携	(b)広域連携	○	(c)市町村連携	○	(d)相談事業相乗効果			
	標準事業費		補助率		(①市町村等+②受益者負担)				
1,212,000 円 ×		0.50		=	606,000 円		( 円 )		
補助金の団体配分 (「代」欄には、中核団体またはヒアリングで説明する代表団体に○)	代	商工会・会議所名	配分額		役割(配分の考え方)				
			円						
			円						

【備考】  
 泉南異業種交流会事業において、事業②にあたる市内工場見学ツアーを令和3年2月4日に開催予定でしたが、1月14日に緊急事態宣言が再発令されたことにより、見学会参加者や受入企業側の感染リスクを考慮し中止した。  
 それ以外の事業①経営セミナー、③先進事業所視察については予定通り実施した。

※別添で補足する内容があれば添付してください。

小規模事業経営支援事業 地域活性化事業 変更理由書

泉南市商工会

事業名 泉南異業種交流会事業

計画に対する  
実績(数値)

支援企業  
数(計画)

10

支援企業  
数(実績)

0

支援  
実績率

0.0%

【参考】  
参加者数

理 由

【変更の経過と理由】

泉南異業種交流会事業の事業②市内工場見学ツアーを中止しました。  
泉南異業種交流会事業の事業①経営セミナー、事業③先進事業所視察については予定通り事業実施  
しています。

令和3年2月4日(木)14時より『見て驚き!聞いて感動!自社に取り入れ大きくジャンプ!~泉  
南市内の事業所から学ぶ~工場見学ツアー2021』の開催を予定していました。  
令和3年1月14日に緊急事態宣言が再発令されたことにより、大阪府の感染防止に向けたガイドラ  
インやソーシャルディスタンスなどを遵守しながら開催を模索しておりましたが、受入企業である  
平和製罐株式会社(缶容器メーカーとして発足以来、ナンバープレート、住居表示板等製造)と会  
議の上、見学会参加者や受入企業側の感染リスクを考慮し中止とする判断になった。

【今後の改善方策】

新型コロナウイルス感染症の影響は継続が予測され、次年度以降の広域連携事業などリモート開  
催(見学ビデオなどデータ共有)も視野にいれ検討する必要を感じました。

【経費内訳】

大阪府に提出している令和2年度地域活性化事業 事業調書から変更になります。

【変更前】

【変更後】

事業①	404,000円	⇒	404,000円	
事業②	202,000円		0円	※事業中止
事業③	808,000円		808,000円	
合計	1,414,000円		1,212,000円	
申請額	707,000円		606,000円	▲101,000円(補助率0.5)

事業中止時の当商工会における経費申請はありません。